

徳川林政史研究所蔵 石河家文書目録(十三)

凡 例

- 一 本目録は、徳川林政史研究所が所蔵する「石河家文書」について収録したものである。石河家は、尾張藩の年寄役を代々つとめた家柄で、石川光忠が慶長一三年（一六〇八）に徳川家康の命により駿府へ出仕したのをはじめとして、同一五年には美濃・摂津両国内において新知一万石を与えられ、同一七年には初代尾張藩主徳川義直（家康九男）の付属に転じた。光忠の嫡子正光は、承応元年（一六五二）に初めて尾張藩の年寄役に列し、以後歴代にわたって年寄役に就任している。なお、石河家では、当初「石川」の字を用いていたが、享保一七年（一七三二）九月、旧に復して「石河」と記すようになった。当研究所の保管書類である「研究室事務報告（二）自昭和十年一月至十四年十二月」によると、本史料群は、昭和一〇年（一九三五）に名古屋より東京へ移送されたとあり、同時に石河家より寄贈されたことが知られる。またその他、昭和四二年（一九六七）には、木箱入りの石河家文書一箱を古書店から購入した旨の記録が残されており、戦前期の寄贈分と戦後の購入分とが混在する形をとっている。
- 一 本目録は「石河家文書目録」（十三）として、前号の続きとなる、史料番号三四九一―三七〇〇までを収録した。なお、本目録は、文書点数が非常に多いことや紙幅の関係などから、一度に収録することは困難であるため、複数回に分けて掲載していくことにする。
- 一 本目録では、各史料について、①番号、②表題、③年月日、④差出（または作成者）↓宛所、⑤形態、⑥数量、⑦備考の七項目を採録した。

- 一 番号は、原則として過去に当研究所において付された番号を利用したが、一部については、今回の整理・目録化作業にあたり、出納・管理の便宜を考慮して新たに番号を付与したものがあある。なお、史料の配列や出納の都合上、欠番号はそのままにしてある。
- 一 表題は、原則として原表題を記し、必要なものについては適宜（ ）を付して内容を補記した。また、戦前期に当研究所において製本され、新たな表題が付けられたものについては、「 」を付けて示すことにした。典籍の場合は、原則として内題（巻頭題）を採用し、外題を「 」付きで直後に示すことにした（ただし、内題と外題が同じものに関しては「 」の表記は省略した）。
- 一 年月日は、原則として史料に記載されている年月日（内容年）を示すことにし、目録作成時に推定した部分については（ ）を付けて適宜表記した。また、年次記載がないもの、おおまかな作成年代がわかる場合には、（寛政）（寛政以降）（寛政く文化）あるいは（江戸）（明治）などと（ ）を付して該当する年号や時期を示すことにし、推定不能の場合には（年未詳）とした。
- 一 差出（または作成者）↓宛所は、差出人または作成者を矢印の前の部分に示し、宛所となっている人名を矢印の先の部分に置いた。差出人や宛所が複数からなる場合には、初筆の者または内容から判断して最適の人名を一名掲出し、このほかについては「他〇名」と略記した場合もある。また典籍の場合には、著者・编者・版元などを採録し、「〔著〕」、「〔編〕」、「〔版〕」などと表記することにした。
- 一 形態については、縦（縦帳）・横（横長帳）・横半（横半帳）・状（切紙・続紙・折紙）・鋪（絵図）・綴（作成契機の異なる複数の史料を綴ったもの

の)・帖(折本)などと示した。小型本については、「横・小」「縦・小」などと表記した。また、戦前期に当研究所において複数の史料を合綴して製本したものに關しては、特に「縦綴」「横綴」などと表記した。

一 数量は、出納・閲覧の便宜を考慮し、後年の改装により、分冊あるいは合綴されたことが明らかな場合でも、現在保存されている状態での点数を採用した。

一 備考には、史料の概略や史料の中に挟み込まれている書状・書付、および綴じ込まれた文書の有無、欠本・合綴・改装の状態など、必要と思われる事柄を*印を付けて適宜表記した。

一 本史料群には、戦前期に当研究所において複数の史料をまとめて製本した合綴史料が数多くみられる。これらについては、その細目を丸番号を付けて列挙することにした(ただし、丸番号は収録順序を示す目安に過ぎず、細目に該当する個々の史料に実際に番号が付されているわけではない)。なお、細目の各項目における配列は、表題、年月日、差出(または作成者)↓宛所、備考の順とし、それぞれを二文字アキで示したが(細目の備考については、冒頭に※印を付した)、該当する項目に關する記載がない場合には、省略して表記している。

一 本目録は、平成一四年度〜同二〇年度に行つた研究員・非常勤研究員・研究生による夏季・春季集中史料整理の成果の一部である。調査参加者は、太田尚宏(主任研究員・当時)・白根孝胤(研究員・当時)、石山秀和・浦井祥子・栗原健一・坂本達彦・渋谷葉子・清水聡・滝口正哉・田原昇・西光三・藤田英昭・宮原一郎(以上、非常勤研究員・当時)、上野恵・小宮山敏和・高橋伸拓・根岸美季・松本剣志郎・山崎久登・吉成香澄・倉持隆・中村佳史(以上、研究生・当時)の二二名である。

なお、採録された整理カードの内容点検と原稿化作業は、高田綾子・池ノ谷匡祐・武藤洋子(非常勤研究員・当時含む)の協力のもとで、藤田英昭(研究員)が担当した。

【参考】 石河家歴代当主の略歴(尾張家付属から明治三年まで)

初代 光 忠 「市正・太八郎 初名太郎八」

慶長一三年冬

家康の命により一五歳のときに駿府へ出仕

慶長一五年一〇月一二日 美濃・摂津両国内に新知一万石を与えら

れる

慶長一七年

尾張藩初代藩主徳川義直に付属する

寛永五年九月一九日

死去 法名は大雄院玄信

二代 正 光 「伊賀・太郎八 初名加助」

寛永五年

家督を相続する

寛永一九年

寄合触流となる

承応元年九月

年寄役となる

寛文四年六月一二日

御役御免となる

寛文一一年九月一〇日

死去(五七歳) 法名は蓮華院

三代 章 長 「隠岐守 伊賀・伊賀守・大和守・出羽守・佐渡守・大

和守 初名七郎左衛門 隠居名章長」

万治元年

初めて藩主に御目見をする

寛文一一年一〇月

家督を相続し、大寄合に属する

寛文一二年四月一日 伊賀と改名する

延宝三年三月二六日 年寄役となる

延宝五年閏一二月二八日 従五位下伊賀守に叙任される

貞享元年一二月二五日 大和守に改める

貞享二年六月二三日 出羽守に改める

元禄元年一二月六日 佐渡守に改める

元禄三年一二月四日 大和守に改める

元禄一二年一二月一三日 隠岐守に改める

宝永三年二月九日 隠居し、章長と名乗る

宝永五年五月四日 死去(六〇歳) 法名は章長院

四代 正章 「出羽守 太八郎・靱負・大炊 初名幸七郎 隠居名

愚翁」

元禄七年一〇月四日 初めて藩主に御目見をする

元禄一三年一二月二二日 靱負と改名する

宝永三年二月九日 家督を相続し、大寄合に属する

宝永三年三月二五日 年寄役となる

宝永四年正月 大炊と改名する

享保四年一二月二二日 従五位下出羽守に叙任される

享保一六年六月一五日 隠居

享保一六年八月 愚翁と名乗る

宝暦三年七月二八日 死去(七〇歳) 法名は清静院

五代 忠喜 「伊賀・太八郎・隠岐 初名七太郎」

享保四年九月二二日 初めて藩主に御目見をする

享保七年二月二〇日 太八郎と改名する

享保八年二月 隠岐と改名する

享保一七年六月一五日 家督を相続する

享保一七年九月 「石川」を「石河」と改め、伊賀と改名する

享保一八年六月二二日 死去(二八歳) 法名は真源院

六代 光當 「伊賀守 雅楽・伊賀 初名千次郎」 実は出羽守正章

の二男

享保六年四月二二日 石川兵庫の名跡を継ぎ、普請組寄合となる

享保一六年四月二九日 御書院番頭となる

享保一六年九月一九日 御用人となる

享保一八年八月二二日 兄伊賀(忠喜)の名跡を継ぐ

享保一九年二月 伊賀と改名する

元文四年八月六日 年寄役となる

元文五年一二月二二日 従五位下伊賀守に叙任される

安永二年七月二三日 死去(六一歳) 法名は徳源院

七代 光籌 「伊賀守 太八郎・一学 初名銀次郎」 実は伊賀守光當

の四男

寛延元年一〇月二五日 石河三蔵の名跡を継ぐ

明和五年二月一五日 父伊賀守光當の内願により嫡子となる

明和五年三月一日 太八郎と改名する

明和八年八月五日 御側同心頭御用見習となる

明和八年一〇月二六日 御側同心頭となる

安永二年九月一四日 父伊賀守の遺跡を継ぐ

安永二年一〇月一日 年寄役となる

安永二年一二月二八日 従五位下伊賀守に叙任される

文化二年七月一七日 御用方ならびに加判御免となる

文化六年四月二〇日 死去(六四歳) 法名は乾龍院

光 豊 「太郎八 初名初次郎」 実は太郎八光堅(賢)の嫡子

安永九年正月一五日 伊賀守光籌の養子となる

天明元年正月二二日 太郎八と改名する

享和二年八月二四日 御側大寄合御用見習となる

享和三年五月二二日 死去(四〇歳) 法名は縁樹院

八代 光 茂 「出羽守 太八郎・伊賀守 初名幸七郎」 実は太郎八

光豊の嫡子

文化三年二月九日 祖父伊賀守光籌の願いにより嫡孫承祖が認められる

文化六年六月一〇日 伊賀守光籌の遺跡を継ぎ、諸事光籌の通り

務めるべき旨を仰せつけられる

文化九年二月一日 加判(年寄役)となる

文化一二年九月一日 加判御免となる

文化一四年一二月一四日 加判となる(再勤)

弘化三年一二月二二日 従五位下伊賀守に叙任される

嘉永元年一〇月二四日 出羽守に改める

嘉永六年六月二九日 隠居

慶応三年 死去

九代 光 晃 「太八郎・佐渡守・佐渡・太八郎 初名孟二郎」

嘉永六年六月二九日 家督を相続する

嘉永六年九月二八日 加判となる

嘉永六年一〇月二日 太八郎と改名する

安政四年一二月二二日 従五位下佐渡守に叙任される

明治元年一二月二四日 官位返上により、佐渡と名乗る

明治二年正月一五日 刑事知事を仰せつけられる

明治三年九月 明治政府より笠松県貫属を仰せつけられる

〔系譜〕〔石河家文書一〇二二〕および「藩士名寄」「士林派洵」による

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三西九 (被献候御残小豆二箱頂戴ニ付礼状)

(延享〜明和)
二月二六日

巨勢大和守利啓(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 巨勢利啓は側衆(延享二年〜宝暦元年)、西丸側衆(宝暦元年〜同一〇年)、本丸側衆(宝暦一〇年〜明和二年)。

三西三 (被献候御残小豆二箱頂戴ニ付礼状)

(延享〜宝暦)
二月二五日

戸田淡路守氏房(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 戸田氏房は西丸若年寄(延享元年〜宝暦八年)。

三西三 (被献候御残小豆二箱頂戴ニ付礼状)

(元文〜安永)
二月二四日

板倉佐渡守勝清(花押)
↓石河伊賀守様

状 一

* 石河伊賀守は六代光當または七代光壽のこと。板倉勝清は若年寄(享保二〇年〜宝暦一〇年)、側用人(宝暦一〇年〜明和四年)、西丸老中(明和四年〜同六年)、本丸老中(明和六年〜安永九年)。

三西五 (被献候為御残小豆二箱頂戴ニ付礼状)

(元文〜寛延)
二月二八日

松平駿河守信望(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 松平信望は二丸側衆(享保九年〜延享二年)、本丸側衆(延享二年〜寛延四年)。

三西五 (被献候御残小豆二箱頂戴ニ付礼状)

(元文〜明和)
二月二八日

松平因幡守康郷(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 松平康郷は駿府城代(元文四年〜寛延四年)、西丸側衆(寛延四年〜宝暦一〇年)、御側御用取次(宝暦一〇年〜明和八年)。

三西六 (被献候為御残小豆二箱頂戴ニ付礼状)

(寛延〜宝暦)
二月二八日

水野河内守忠富(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 水野忠富は側衆(寛延二年〜宝暦八年)。

三西九 (献上之御残小豆二箱頂戴ニ付礼状)

(元文〜宝暦)
二月二五日

戸田土佐守忠胤(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 戸田忠胤は西丸側衆(享保一九年〜延享二年)、本丸側衆(延享二年〜同三年)、西丸側衆(延享三年〜宝暦五年)。

三西九 (献上御残小豆二箱頂戴ニ付礼状)

(延享〜宝暦)
二月二八日

秋元但馬守涼朝(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 三西九〜三西九七を括っていた紐とも。秋元涼朝は老中(延享四年〜宝暦一四年)。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三西九十二 (献上之御残小豆一箱頂戴ニ付礼状)

(寛延〜宝暦)
二月二三日

酒井左衛門尉忠寄(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 酒井忠寄は老中(寛延二年〜宝暦一四年)。

三西九十三 (献上之御残小豆一箱頂戴ニ付礼状)

(延享〜宝暦)
二月二三日

松平宫内少輔忠恒(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 松平忠恒は若年寄(寛延元年〜明和五年)で、延享元年〜宝暦九年の間宫内少輔を称す。

三西九十四 (献上之御残小豆一箱頂戴ニ付礼状)

(延享〜宝暦)
二月二六日

本多伯耆守正玠(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 本多正珍は老中(延享三年〜宝暦八年)。

三西九十五 (献上御残一種頂戴ニ付礼状)

(延享〜安永)
二月二五日

松平右近将監武元(花押)
↓石河伊賀守様

状 一

* 石河伊賀守は六代光當または七代光壽のこと。松平武元は老中(延享三年〜安永八年)。

三西九十六 (被献候御残小豆一箱頂戴ニ付礼状)

(延享〜宝暦)
二月二三日

西尾隠岐守忠尚(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 西尾忠尚は老中(延享二年〜宝暦一〇年)。

三西九十七 (献上之御残小豆一箱頂戴ニ付礼状)

(延享〜宝暦)
二月二五日

堀田相模守正亮(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 堀田正亮は老中(延享二年〜宝暦一一年)。

三西九十八 (年始為御祝詞干鯛一折頂戴ニ付礼状)

(宝暦五年)
正月二三日

堀田相模守正亮(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 三西九十八〜三西九十九を括っていた紐とも。紐に「宝暦五亥年年頭」の紙縫あり。包紙とも。

三西九十九 (為御祝詞干鯛一折頂戴ニ付礼状)

(宝暦五年)
正月二三日

酒井左衛門尉忠寄(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

* 包紙とも。

三西九十九 (為御祝詞干鯛一折頂戴ニ付礼状)

(宝暦五年)
正月二二日

本多伯耆守正玠(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

三西九十四 (為年始御祝儀ニ付礼状)

(宝曆五年) 正月二三日
松平右近将監武元(花押)
↓石河伊賀守様(光當)

状 一

*包紙とも。

三西九十五 (為御祝詞干鯛一折頂戴ニ付礼状)

(宝曆五年) 正月二二日
西尾隠岐守忠尚(花押)
↓石河伊賀守(光當)様

状 一

*包紙とも。

三西九十六 (為御祝詞干鯛一折頂戴ニ付礼状)

(宝曆五年) 正月一五日
秋元但馬守涼朝(花押)
↓石河伊賀守(光當)様御報

状 一

*包紙とも。

三五〇一 (暑中御見舞預ニ付礼状)

(嘉永六年) 六月二六日
石河土佐守政平(花押)
↓石河孟二郎(光晃)様

状 一

*折紙。「石河政平土佐守」の花押を記した紙片一枚とも。三五〇一〜三五〇二を括っていた紐とも。紐に「御家門様」と記された紙縊あり。石河孟二郎は嘉永六年六月に家督相続、一〇月に太八郎と改名。石河政平は勘定奉行(天保〜安政)。

三五〇二 (寒中御見舞預ニ付礼状)

(安政〜慶応) 二月二七日
石河山城守政徳(花押)
↓石河佐渡守(光晃カ)様

状 一

*折紙。「石河政教数馬」の花押を記した紙片一枚とも。石河政徳は寄合(安政以降)。

三五〇三 (寒中御見舞預ニ付礼状)

(安政〜慶応) 二月
石河壱岐守貞明(花押)
↓石河佐渡守(光晃カ)様

状 一

*折紙。石河貞大と石河貞通の花押を記載した紙片一枚とも。石河貞明は天保〜嘉永期の小納戸・小性。

三五〇四 (寒中御見舞預ニ付礼状)

(安政〜慶応) 正月二〇日
石河豊前守政徳(花押)
↓石河佐渡守(光晃カ)様

状 一

三五〇五 (年始御祝詞預ニ付礼状)

(安政〜慶応) 正月二三日
石河豊前守政徳(花押)
↓石河佐渡守(光晃カ)様

状 一

三五〇六 (年始御祝詞預ニ付礼状)

(安政〜慶応) 正月
石河壱岐守貞明(花押)
↓石河佐渡守(光晃カ)様

状 一

*折紙。石河貞明の花押を記した紙片一枚とも。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三五〇七 (年始御祝詞預ニ付状)

(安政)慶応
正月二九日

石河土佐守政平(花押)
↓石河佐渡守(光晃カ)様

状 一

* 折紙半欠。

三五〇八 (年始御祝詞預ニ付状)

(安政)慶応
正月一五日

石河土佐守政平(花押)
↓石河佐渡守(光晃カ)様

状 一

* 折紙半欠。

三五〇九 (被献候御残小豆二箱頂戴ニ付礼状)

(嘉永)安政
二月八日

石河土佐守政平(花押)
↓石河太郎(光晃カ)様

状 一

* 折紙半欠。

三五〇一〇 (寒中御見舞預ニ付礼状)

(嘉永)安政
二月八日

石河土佐守政平(花押)
↓石河太郎(光晃カ)様

状 一

* 折紙。

三五〇一一 (暑中御見舞預ニ付礼状)

(安政)慶応
六月二日

石河壱岐守貞明(花押)
↓石河佐渡守(光晃カ)様

状 一

* 折紙半欠。

三五〇二 (括紐)

(江戸)

紐 一

* 三五〇一、三四一四を括っていた紐。紙片二枚あり。

三五〇三 (茶席道具付并献立書上)

(江戸)四月三日・四日

状 一

* 紙継はがれ。

三五〇四 (修理江罷越候節之茶席道具付并献立書上)

(江戸)

状 一

三五〇五 (茶席道具付并献立書上)

(江戸)正月一八日

状 一

* 紙継はがれ。

三五〇六 (茶席道具付并献立書上) (江戸)九月一八日 状 一

* 紙継はがれ。

三五〇七 戊三月廿一日献立(会席献立書上) (江戸)戊三月二日 状 一

* 端裏書に「七面妙善寺」と記載あり。紙継はがれ。

三五〇八 (献立書上) (江戸)辰四月五日 状 一

* 虫損。紙継はがれ。

三五〇九 (茶席道具付并献立書上) (江戸)辰八月二日 状 一

* 紙継はがれ。

三五一〇 (姫宮様御入輿之節奥向衆中衣服之儀書付写) 享保二六年一〇月二二日 状 一

* 「姫宮様」は九代將軍徳川家重の正室となる比宮(伏見宮邦永親王息女)のこと。

三五一一 (渡辺半蔵江馬ニ而出会乗順毛付書上) (江戸)六月一七日 状 一

* 紙継はがれ。

三五一二 (茶席道具付并献立書上) (江戸)一〇月一七日 状 一

* 紙継はがれ。冒頭に「十月十七日半蔵江罷越、津田縫殿・大道寺孫藏・田宮半兵衛、半蔵分頼ニ付令誘引候」とあり。

三五一三 二月廿八日献立(会席献立書上) (江戸)二月二八日 状 一

* 紙継はがれ。

三五一四 (献立書上) (江戸)九月晦日 状 一

* 紙継はがれ。

三五一五 (卯十二月廿五日婚姻之節道具飾并献立書上) (江戸)卯二月二五日 状 一

* 紙継はがれ。

三五一六 (献立書上) (江戸)一二月朔日 状 一

* 端裏に括り紐が糊付けされている。

三五一七 覚(茶道具書上) (江戸)申九月九日 状 一

* 端裏に「申九月九日恒三郎様へ、御茶ニ而外三郎様・守金勇助参右御茶御道具付」と記載あり。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三五八 (献立書上)

(江戸)二月六日

状 一

三五九 (濃州関大塚屋隠居釜阿弥宅之図)

(江戸)

状 一

三六〇 (関大塚屋隠居釜阿弥宅道具飾等覚書)

(江戸)午九月二日

状 一

* 端裏に「午九月二日関大塚屋隠居釜阿弥宅道具付飾付等之覚書」と記載あり。紙継はがれ。

三五三 (献立書上)

(江戸)四月二六日

状 一

三五三 (十五日伊深正眼寺献立書上)

(江戸)一五日

状 一

三五三 (別荘茶席道具付并献立書上)

(江戸)亥三月九日

状 一

* 紙継はがれ。

三五四 (茶席道具付并献立書上)

(江戸)一〇月二六日

状 一

* 紙継はがれ。

三五五 (床飾書上)

(江戸)一〇月朔日

状 一

* 端裏に括り紐の糊付けあり(剥離)。紙継はがれ。

三五六 三月廿八日因幡殿江罷越候次第

(江戸)四月朔日

石河太郎八↓

状 一

* 端裏に「午三月廿八日一因幡殿江罷越候節馳走方次第之覚書付石河太郎八」と記載あり。紙継はがれ。

三五七 (献立書上)

(江戸)

状 一

三五八 (座付茶次献立書上)

(江戸)四月

状 一

三五九 (献立并茶席道具付書上)

(江戸)

状 一

* 紙継はがれ。

三六〇 (献立并茶席道具付書上)

(江戸)二月二八日

状 一

* 紙継はがれ。

三六三 (献立并茶席道具付書上)

(江戸)六月一六日

状 一

* 紙継はがれ。

三五三 (献立書上)

(江戸)六月一八日

状 一

三五三 (別業茶席道具付并献立書上)

(江戸)亥弥生二四日

状 一

* 紙継はがれ。

三五四 (別荘茶席道具付并献立書上)

(江戸)戊五月一三日

状 一

* 紙継はがれ。

三五五 (床飾其外道具付并献立書上)

(江戸)八月八日

状 一

* 紙継はがれ。

三五六 (床飾其外道具付并献立書上)

(江戸)閏二月三日

状 一

* 紙継はがれ。

三五七 (九月十日床飾其外并献立及同十四日献立書上)

(江戸)九月一〇日・一四日

状 一

* 紙継はがれ。

三五八 (床飾其外道具付并献立書上)

(江戸)二月一五日

状 一

* 紙継はがれ。

三五九 (堀・門其外新規作事并修補場所書上)

(江戸)

状 一

三五〇 (諸役所其外建替・修復・修補場所書上)

(江戸)

状 一

* 紙継はがれ。

三五二 (別業茶席道具付并献立書上)

(江戸)戊七月朔日

状 一

三五三 (献立書上)

(江戸)正月九日

状 一

三五三 (山吹別荘茶席道具付并献立書上)

(江戸)

状 一

三五四 (茶席道具付并献立書上)

(江戸)午九月二日

状 一

* 紙継はがれ。貼紙あり。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三五四 (因幡殿ニ而馳走之献立書上)

(江戸)七月三日

状 一

* 端裏に「七月三日因幡殿へ罷越右之馳走献立之大概」と記載あり。

三五六 (渡辺中務婚礼三ツ目之祝之節御客及御馳走御料理献立書付)

(天明二年二月)

状 一

* 紙継はがれ。渡辺中務は渡辺綱道(綱通)の躰養子の綱光のこと。

三五七 (志水半之丞新規御目見相済ニ付招請之節囉子番組書付)

(天明五年カ)巳二〇月二三日

状 一

* 紙継はがれ。端裏書あり。志水半之丞は忠喬のことカ。志水忠喬は天明五年九月二五日に初御目見している。

三四八 (茶席道具付并献立書上)

(江戸)一〇月一九日

状 一

* 紙継はがれ。

三四九 (茶席道具付并献立書上)

(江戸)一〇月二五日

状 一

* 紙継はがれ。

三五〇 (勝手不如意ニ付召連之節其外格外省略仕度儀書付写)

(江戸)月

姓名

状 一

* 端裏に「修理勝手不如意ニ付相願候書付写」と記載あり。

三五二 (床飾其外道具付并献立書上)

(江戸)午正月五日

状 一

* 紙継はがれ。

三五三 (覚去ル十五日直左衛門様御逢被成候節被仰聞候儀ニ付書付)

(江戸)六月二日

杉山作左衛門↓

状 一

* 紙継はがれ。

三五四 (床飾其外道具付并献立書上)

(江戸)五月六日

状 一

* 紙継はがれ。

三五五 (床飾其外道具付并献立書上)

(江戸)巳極冬二八日

状 一

* 紙継はがれ。虫損。

三五五 (座付茶次献立書上)

(江戸)四月二五日

状 一

- 三五五 覚(岡田正弼御役儀御免之儀其外奉言上候趣ニ付書付) (江戸)三月六日 状 一
- 三五七 覚(直左衛門様被仰渡振取調書之儀ニ付書付) (江戸)正月二五日 状 一
*紙継はがれ。前破れあり。 杉山作左衛門↓
- 三五九 献立 (江戸)四月六日 状 一
(茶席道具付并会席献立書上) (江戸)九月六日 状 一
*紙継はがれ。
- 三六〇 (渡辺初雛祝床飾其外道具付并献立書上) (江戸)辰三月二日 状 一
- 三六一 (床飾其外道具付并献立書上) (江戸)六月二三日 状 一
*紙継はがれ。
- 三五三 御献立 (江戸) 状 一
(床飾并茶道具書上) (江戸)子一〇月二四日 状 一
*紙継はがれ。
- 三五四 (献立并床飾書上) (江戸)正月二五日 状 一
*紙継はがれ。
- 三五五 (淡路守養子右近婚姻相調招請之節床飾其外道具付并献立書上) (天保六年)乙未五月朔日 状 一
- 三五六 (座付湯次献立書上) (江戸)八月一〇日 状 一
*紙継はがれ。年代は文末の「乙未五月朔日」および「孟二郎共相越」の文言により比定。
- 三五七 (献立書上) (江戸) 状 一
- 三五八 (献立書上) (江戸) 状 一
- 三五九 (床飾并献立書上) (江戸)二月二日 状 一
*紙継はがれ。

番号表題	年月日	差出(作成)↓宛所	形態・数量
三五七 御献立 *紙継はがれ。	(江戸)		状 一
三五七 (献立書上) *紙継はがれ。	(江戸)		状 一
三五七 (献立書上) *紙継はがれ。	(江戸)		状 一
三五七 (直左衛門様江調書人御覽候儀ニ付書付) *端裏に別紙糊付けあり(冒頭部分カ)。文中にある「別紙被仰出之趣」は三五四に該当すると思われる。	(江戸)三月二三日	杉山作左衛門↓	状 一
三五七 (役儀被仰出書) *三五七の文中にある「別紙被仰出之趣」に該当すると思われる。	(江戸)		状 一
三五七 (弥吉儀被仰出之趣ニ付書付) *端裏に別紙糊付けあり。	(江戸)九月一日	杉山作左衛門↓	状 一
三五七 (浅川彦右衛門家名相統并浅川弥吉御仕置之儀ニ付書付) *紙継はがれ。裏に天野民藏他一名より加嶋清八郎・杉山作左衛門宛の御機嫌伺い三通の写しあり。	(江戸)		状 一
三五七 覚(近藤為三郎・安井午九郎江被仰出之儀ニ付書付) *紙継はがれ。	(江戸)正月二三日	杉山作左衛門↓	状 一
三五七 (床飾其外道具付并菓子書上) *紙継はがれ。	(江戸)二月二七日		状 一
三五七 (正月八日床飾献立并正月五日献立書上) *紙継はがれ。	(江戸)申年正月五日		状 一
三五七 (床飾并献立書上) *紙継はがれ。虫損。	(江戸)戌一〇月二日		状 一
三五七 (床飾其外道具付并献立書上) *紙継はがれ。	(江戸)巳正月九日		状 一

三五三 (床飾并献立書上) (江戸)二月二六日

* 紙継はがれ。

三五三 (床飾其外道具付并献立書上) (江戸)八月三日

* 紙継はがれ。

三五四 (床飾其外道具付并献立書上) (江戸)巳二月三日

* 紙継はがれ。

三五五 (床飾其外道具付并献立書上) (江戸)午二月二七日

* 紙継はがれ。

三五六 (床飾其外道具付并献立書上) (江戸)一月二九日

* 紙継はがれ。

三五七 (別荘床飾其外道具付并献立書上) (江戸)亥三月四日

* 紙継はがれ。

三五八 (狂言番組書上) (江戸)

* 紙継はがれ。虫損。端裏に「四狂言番組」と記載あり。

三五九 (献立書上) (江戸)

* 紙継はがれ。虫損大。端裏に「三献立料理付并器物付」と記載あり。

三五〇 (飾物之覚(書院・居間其外飾物書上) (江戸)

* 紙継はがれ。端裏に「二飾物付」と記載あり。紙継片とも。

三五二 (馬見所・茶屋其外床飾并茶道具書上) (江戸)

* 紙継はがれ。

三五三 (御棚付十二御手箱其外書上) (江戸)

* 紙継はがれ。虫損。

三五三 (太八郎様御入之節御次第書) (江戸)

* 紙継はがれ。切り抜き紙片二枚あり。端裏に「御次第書」と記載あり。

状 一 状 一 状 一 状 一 状 一 状 一 状 一 状 一

番号表題	年月日	差出(作成) ↓ 宛所	形態・数量
三五四 (付女中之事其外見出書上)	(江戸)		状 一
三五五 於尚様御引移御出與御共立書拔(行列書) *紙継はがれ。	(江戸)		状 一
三五六 (行列書) *紙継はがれ。老女・女中・奥懸御用人などの役職名が記載されている。	(江戸)		状 一
三五七 (御厨子其外御小道具書上) *紙継はがれ。	(江戸)		状 一
三五八 覚(隼人正様・御物客様江之進物書上写) *紙継はがれ。端裏に「半太夫様書拔写」と記載あり。	(江戸)		状 一
三五九 (半蔵様・源右衛門様御出之節御案内次第書) *紙継はがれ。端裏に「書拔」と記載あり。	(江戸)		状 一
三六〇 覚(半蔵様今御前江其外進物書上) *紙継はがれ。端裏に「書拔」と記載あり。	(江戸)二月		状 一
三六一 (半太夫様・太八郎様御入之節御規式次第覚書)	(江戸)		状 一
三六二 (半太夫様御入之節御規式次第覚書) *端裏に「御次第書書拔」と記載あり。	(江戸)		状 一
三六三 覚(御祝儀贈答品書上)	(江戸)		状 一
三六四 元服之次第御尋御座候付申上候書付 *包紙とも。端裏に「額の髪はやす祝儀之事」と記載あり。	(江戸)	小笠原與十郎	状 一
三六五 御式御次第(床・床脇飾り等書上)	(江戸)		状 一
三六六 (元服ニ付書付)	(江戸)正月	小笠原與十郎	状 一

- 三〇五 (飾付・献立書上) (江戸)亥二月一五日 状 一
- 三〇六 (近姫様茶会之節献立書上) 寛保四年正月二三日 状 一
* 近姫は梁川松平家二代松平義方の女、七代徳川宗春の養女、上杉宗房の正室。
- 三〇七 (献立書上) (江戸) 状 一
- 三〇八 (渡辺祝儀饗別旁招請ニ付飾付・献立書上) (江戸)九月二五日 状 一
- 三〇九 (飾付・献立書上) (江戸)未正月五日 状 一
- 三一〇 孟次郎様御額直シ御袖留御祝儀調 (天保〳弘化) 状 一
* 孟次郎は九代石河光晃のこと。
- 三一 一 (飾付・献立書上) (江戸)亥七月二九日・晦日 状 一
- 三二 御献立 (江戸) 状 一
- 三三 (別墅における飾付・献立書上) (江戸)戌三月一九日 状 一
- 三四 (別墅における献立書上) (江戸)戌四月六日 状 一
- 三五 (別墅における飾付・献立書上) (江戸)戌三月三日 状 一
- 三六 (半太夫様・太八郎様御入之節御規敷次第覚書) (江戸) 状 一
- 三七 (飾付・献立書上) (江戸)二月一四日 状 一
- 三八 成瀬半太夫初而婚姻済来客之節道具附献立之覚 (江戸)戌九月二五日 状 一
* 表題は奥にあり。
- 三九 (献立書上) (江戸)三月一七日 状 一
- 四〇 (飾付・献立書上) (江戸)亥一〇月四日 状 一
- 四一 (飾付・献立書上) (江戸)二月一五日 状 一

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三三三	(飾付・献立書上)	(江戸)三月一七日	状	一
三三三	(飾付・献立書上)	(江戸)	状	一
三三三	(飾付・献立書上)	(江戸)七月一九日	状	一
三三五	(飾付・献立書上)	(江戸)辰四月一七日	状	一
三三六	(主税様夕御招ニ付献立書上)	(江戸)閏四月朔日	状	一
三三七	(飾付・献立書上)	(江戸)未四月二六日	状	一
三三六	五月十日竹腰志摩守様新御屋敷御客(飾付・献立書上) * 竹腰志摩守は竹腰正武(実は石河章長の四男)のこと。	享保二六年亥五月一〇日	状	一
三三五	(半蔵様・於尚様御初客之節被下物書上)	(江戸)	状	一
三三〇	(飾付・献立書上)	(江戸)戊正月一三日	状	一
三三三	(飾付・献立書上)	(江戸)亥六月一八日	状	一
三三三	(飾付・献立書上)	(江戸)卯正月二日	状	一
三三三	(献立書上)	(江戸)七月二五日	状	一
三三四	(飾付・献立書上)	(江戸)辰正月三日・ 九日・二一日	状	一
三三五	(山澄婚姻濟此許江初而招請之節飾付書上) * 三三五一〜三三五二の包紙・紐とも。	文化八年未二月	状	一
三三五	(献立書上)	(江戸)	状	一
三三六	(飾付・献立書上)	(江戸)酉三月一〇日	状	一

三三七一 四月十八日大雄院・桂春院御招請御献立覚御七人前 (江戸)四月二八日 状

* 付札あり。三三七一～三三七七の括り紐とも。大雄院は初代石河光忠、桂春院は豊臣秀吉・同秀頼・徳川家康に仕えた石川(石河)貞政のこと。

三三七二 水無月初六日御煎茶献配 (江戸)六月六日 状

三三七三 四月十八日卓袱(献立・飾付書上) (江戸)四月二八日 状

三三七四 (飾付書上) (江戸) 状

三三七五 (飾付・茶道具・献立書上) (江戸)八月二六日・九月九日 状

* 端裏に「酉七月」と記載あり。

三三七六 (半蔵江罷越候節献立書上) (江戸)丑八月 状

* 包紙・括り紐とも。包紙に「半蔵江罷越候節之書付」と記載あり。

三三七七 (半蔵邸江罷越候節飾付・茶道具書上) (江戸)八月三日 状

三三八一 文化二丑年二月十五日御六十御年賀之節(献立書上) 文化二丑年二月一五日 状

* 三三八一～三三八四の括り紐とも。七代石河光壽の還暦祝儀のもの。

三三八二 (飾付・献立書上) (江戸)二月二一日 状

三三八三 (飾付書上) (江戸) 状

三三八四 (飾付書上) (江戸)五月二七日 状

* 端裏に「五月十七日」と記載あり。

三三九一 (飾付・献立書上) (江戸)二月二二日 状

* 三三九一～三三九九の括り紐とも。

三三九五 (渡辺大曾根別荘における飾付・献立書上) (江戸)五月朔日 状

* 表題は奥にあり。「客由田縫殿頭卜兩人」と記載あり。

番号表題

年月日

差出(作成)宛所

形態・数量

三三九三 (江樓花宴來客ニ付飾付・献立書上)

(江戸)戊三月一〇日

状 一

三三九四 (飾付・献立書上)

(江戸)巳三月九日

状 一

三三九五 (下屋敷渡辺夫妻相見ニ付献立書上)

(江戸)辰三月二五日

状 一

*表題は奥にあり。

三三九六 (渡辺上下着済ニ付飾付・献立書上)

(江戸)酉一二月朔日

状 一

*表題は奥にあり。

三三九七 (渡辺初幟祝招請ニ付飾付・献立書上)

(江戸)五月三日

状 一

*表題は奥にあり。奥に参加者・不参加者の記載あり。

三三九八 (渡辺七夜祝ニ付飾付・献立書上)

(江戸)巳七月一六日

状 一

*表題は奥にあり。

三三九九 (成瀬江初客之節饗応之覚ニ付飾付・献立書上)

(江戸)九月二八日

状 一

*表題は奥にあり。

三四〇〇 (渡辺江初客ニ付飾付・献立書上)

(江戸)卯臘月二八日

状 一

*表題は奥にあり。

三四〇一 (飾付・献立書上)

(江戸)閏三月四日

状 一

三四〇二 (飾付・献立書上)

(江戸)九月二七日

状 一

三四〇三 (城州用事ニ而入來対面ニ付飾付・献立書上)

(江戸)臘月二二日

状 一

*表題は奥にあり。

三四〇四 (飾付・献立書上)

(江戸)如月九日

状 一

*三四〇一～三四〇六の括り紐とも。

- 三四〇二 (飾付・献立書上) (江戸)正月二七日 状 一
- 三四〇三 (飾付・献立書上) (江戸)戌二月二三日 状 一
- 三四〇四 (飾付・献立書上) (江戸)八月一〇日 状 一
- 三四〇五 (飾付・献立書上) (江戸)辰正月八日 状 一
- 三四〇六 (別荘三而飾付・献立書上) (江戸)九月一九日・晦日 状 一
- *表題は奥にあり。端裏に「戌」と記載あり。
- 三四〇七 (飾付・献立書上) (江戸)九月二七日 状 一
- 三四〇八 (飾付・献立書上) (江戸)未正月九日 状 一
- 三四〇九 (飾付・献立書上) (江戸)正月七日 状 一
- 三四一〇 (献立書上) (江戸) 状 一
- 三四一一 (献立書上) (江戸)正月五日 状 一
- 三四一二 (献立書上) (江戸) 状 一
- 三四一三 (献立書上) (江戸) 状 一
- 三四一四 (献立書上) (江戸)弥生一六日 状 一
- 三四一五 (飾付・献立書上) (江戸)二月二九日 状 一
- 三四一六 (飾付・献立書上) (江戸)乙未五月三日 状 一
- 三四一七 (飾付・献立書上) (江戸)二月二七日 状 一
- 三四一八 (飾付・献立書上) (江戸)午正月七日 状 一
- 三四一九 (飾付・献立書上) (江戸)三月二五日 状 一
- 三四二〇 (飾付・献立書上) (江戸)二月二五日 状 一

番号表題	年月日	差出(作成)↓宛所	形態・数量
三四〇一〇 (飾付・献立書上)	(江戸)酉正月二九日		状 一
三四〇一三 (飾付・献立書上)	(江戸)三月二五日		状 一
三四〇一三 (飾付・献立書上)	(江戸)未二月一三日		状 一
三四〇一三 (別墅層楼における飾付・献立書上)	(江戸)酉九月一四日		状 一
*表題は奥にあり。端裏に「酉九月」と記載あり。			
三四〇一四 (飾付・献立書上)	(江戸)戌二月二日		状 一
三四〇一五 (飾付・献立書上)	(江戸)二月二〇日		状 一
三四〇一六 (飾付・献立書上)	(江戸)辰一〇月八日		状 一
三四〇一七 (飾付・献立書上)	(江戸)四月二六日		状 一
三四〇一六 (飾付・献立書上)	(江戸)辰四月五日		状 一
三四〇一 (御直書差出候ニ付書付)	(江戸)		状 一
*三四一〜三四一三の括り紐とも。			
三四一 (上使逸見若狭守殿を以上意之趣各様御奉之手続書)	(江戸)		状 一
*逸見若狭守は御小性組番頭。付札あり。			
三四一三 (前様江八御直書被進別段上意無御座旨其外覚書)	(江戸)		状 一
三四一 (九條様・近衛様・二條様ニ而御料理被下置候献立)	(江戸)九月二二日・ 二五日		状 一
*三四一〜三四一四の括り紐とも。表題は奥にあり。			
三四一 (御上国ニ付上使之節御飾・御献立共書付)	(江戸)		状 一
*三四一〜三四一三を括っていた帯とも。貼紙あり。表題は帯による。			
三四一三 (献立書上)	(江戸)		状 一

三四一四 (公方様西丸御成ニ付飾付書上)

享保一五年戊
二月一六日

*三四一四～三四一八の包紙とも。包紙に「西丸御飾五通」と記載あり。公方様は八代將軍徳川吉宗のこと。

三四一五 西丸御城書(公方様御成之節飾付書上)

(享保)二月一五日

三四一六 (公方様西丸御成ニ付飾付書上)

享保一六年亥
二月一六日

三四一七 (公方様西丸御成ニ付飾付・御能組書上)

(享保)五月一九日

三四一八 (飾付書上)

(享保)

*徳川吉宗の西丸御成の時のもの。

三四一九 元禄四未六月四日宰相様竹腰筑後守殿へ御成之書付共

元禄四年未六月四日

*包紙とも。表題は包紙による。宰相様はのちの三代徳川綱誠、竹腰筑後守は竹腰家三代友正のこと。

三四二〇 (献立書上)

(江戸)

*三四二〇～三四二三の包紙とも。包紙に「御出之節御料理」と記載あり。

三四二二 (献立書上)

(江戸)七月

三四二三 (大坂八軒屋ニ而到来之節大重箱料理書上)

(江戸)七月一五日・一六日

三四二四 七月十七日於紀州供之者江被下候献立

(江戸)七月一七日

*三四二三～三四二四の包紙とも。包紙に「御帰之節御料理」と記載あり。

三四二五 御料理(献立書上)

(江戸)

三四二六 (紐・付札)

(江戸)

*三四二五～三四二六の括り紐。札に「儀札(三)」と記載あり。

三四二七 (上使入来之節出迎之儀ニ付申達)

(江戸)四月二日

*紐とも。

状 一
紐・札 一
状 一
状 一
状 一
状 一
状 一
状 一
状 一
状 一
状 一

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三五四 御順書(増上寺御霊前参詣ニ付)

(江戸)

状 一

三五四 御順書(寛永寺殿有院御霊前参詣ニ付)

(江戸)

状 一

* 殿有院は四代將軍徳川家綱の院号。

三五四 御順書(寛永寺浚明院御霊前参詣ニ付)

(江戸)

状 一

* 浚明院は十代將軍徳川家治の院号。

三五四 (公方様江御茶・柿壹箱・鯛壹折・御樽一荷献上ニ付書付)

(江戸)九月一七日

状 一

三五四 御山内御道書(増上寺御霊前参詣ニ付)

(江戸)

状 一

三五〇 (竹千代様御色直御祝儀ニ付申達)

(文化一〇年カ)二月

↓志水甲斐守殿・渡辺半蔵殿・石河太八郎(光茂)殿

状 一

* 竹千代は十二代將軍徳川家慶長男、文化十一年二月に御色直、同年八月死去。

三五二 (竹千代様江年頭御献上物之儀ニ付申達)

(文化一〇年カ)二月

↓志水甲斐守殿・渡辺半蔵殿・石河太八郎(光茂)殿

状 一

三五三 (竹千代様江年頭御献上物之儀ニ付申達)

(文化一〇年カ)二月

↓志水甲斐守殿・渡辺半蔵殿・石河太八郎(光茂)殿

状 一

三五三 (御発途ニ付姫君様御機嫌公儀より御附御用人迄御伺之事書付)

(江戸)

状 一

三五五 (公方様・御台様分維君様江之上使入来ニ付書付)

(江戸)

状 一

* 維君は高須松平家七代松平勝當の女で九代徳川宗睦養女、近衛基前正室。

三五五 (明日御城江御差出之儀ニ付)

(江戸)二月一八日

三輪傳内↓

状 一

* 三五五一～三五五三の括り紐とも。

三五五二 (明日御城江隼人正様御出被遊候ニ付書付)

(江戸)二月一五日

状 一

三五五三 (西丸御小性組萩原主水御役替ニ付書付)

(文化一二年)

状 一

二月二日

* 端裏に「写」と記載あり。萩原主水は西丸小性組与頭に転役。

三六五四 (御普請奉行柳沢佐渡守其外御役替ニ付書付)

(文化二年)
二月八日

状 一

* 端裏に「写」と記載あり。三奉四〜三奉五の括り紐とも。柳沢佐渡守は右衛門督(田安)殿家老に転役。

三六五三 (西丸御小性組番頭小笠原安房守其外御役替ニ付書付)

(文化二年)
二月三日

状 一

* 端裏に「写」と記載あり。小笠原安房守は西丸御書院番頭に転役。

三六五二 (西丸御小性組番頭松平美作守其外御役替ニ付書付)

(文化二年)
二月八日

状 一

* 端裏に「写」と記載あり。松平美作守は御小性組番頭に転役。

三六五一 (御作事奉行岩瀬加賀守其外御役替ニ付書付)

(文化二年)
一〇月二八日

状 一

* 岩瀬加賀守は御勘定奉行へ転役。

三六五〇 (竹千代様附御衆岡野淡路守其外御役替ニ付書付)

(文化二年)
七月二八日

状 一

* 三六五人〜三六五二四の括り紐とも。岡野淡路守は西丸御側衆へ転役。

三六四九 (御書院番頭松平長門守其外御役替ニ付書付)

(文化二年)
八月二八日

状 一

* 端裏に「写」と記載あり。括り紐とも。松平長門守は大御番頭へ転役。

三六四八 (松平越中守溜詰仰合ニ付書付)

(文化二年)
五月一五日

状 一

* 松平越中守は松平定永のこと。

三六四七 (御台様御広敷番之頭宮本三次郎其外御役替ニ付書付)

(文化二年)
五月一五日

状 一

* 宮本三次郎は峯姫君様御用人へ転役。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三六五十三 (西丸御小性組天野新右衛門其外御役替ニ付書付)

(文化二年) 六月二十四日

状 一

*端裏に「写」と記載あり。天野新右衛門は西丸御裏御門番頭へ転役。

三六五十三 (仙洞附桜井備中守其外御役替ニ付書付)

(文化二年) 六月九日

状 一

*端裏に「写」と記載あり。桜井備中守は西丸御留守居へ転役。

三六五十四 (火消役本多主馬其外御役替ニ付書付)

(文化二年) 四月二十四日

状 一

*本多主馬は百人組之頭へ転役。

三六五十五 (御役替之書付御城附々差越ニ付写壺通差上書)

(文化二年) 九月十五日

状 一

*端裏に「書付」と記載あり。差し上げた「写」は三六五。

三六五 (御小性組番頭牧野若狭守其外御役替ニ付書付)

(文化二年) 九月十五日

状 一

*端裏に「写」と記載あり。牧野若狭守は御書院番頭へ転役。

三六六 (御役替之書付御城附より指越ニ付差上書)

(文化二年) 一〇月九日

状 一

*端裏に「書付」と記載あり。差し上げたものは三六五。

三六六 (西丸御書院番頭松平伊予守其外御役替ニ付書付)

(文化二年) 一〇月九日

状 一

*松平伊予守は大御番頭へ転役。

三六七一 (御役替之書付御城附々差越ニ付写壺通差上書)

(文化二年) 二月二十七日

状 一

*端裏に「書付」と記載あり。三六七一、三六七一の括り紐とも。差し上げた「写」は三六七一。

里村一左衛門

三六〇上 (御使番久貝忠左衛門其外御役替ニ付書付) (文化二年) 二月二十七日 状

* 端裏に「写」と記載あり。久貝忠左衛門は百人組之頭へ転役。

三六一 中務大輔様より御茶御進上之御使江御答振 (江戸) 状

三六二 竹千代様御宮参ニ付西丸参着之儀申達 (文化二年カ) 七月二十七日 状

* 三六二上、三六二下の括り紐とも。竹千代は十二代將軍徳川家慶の長男か。文化二年八月二十六日死去。

三六三上 御口上振(竹千代様御宮参ニ付尾張殿へ献上之書付) (文化二年カ) 状

* 端裏に「御口上振」と記載あり。

三六三下 竹千代様御宮参ニ付尾張殿より献上之書付 (文化二年カ) 七月二十八日 状 石河太八郎

三六四 (京都使高家織田主計頭勅答之節覚書) (江戸) 四月二日 状

三六五 (御納戸梶助右衛門御役替ニ付書付) (文化二年) 三月二十七日 状

* 端裏に「写」と記載あり。括り紐とも。梶助右衛門は御船手へ転役。

三六六上 書付(御役替之書付御城附る差越ニ付一通差上書) (文化二年) 四月二十九日 状 松田與兵衛

* 端裏に「書付」と記載あり。三六六上、三六六下の括り紐とも。差し上げたものは三六六上。

三六六下 (御奏者番・寺社奉行兼帯松平右京亮御役替ニ付書付) (文化二年) 四月二十九日 状

* 松平右京亮は大坂城代へ転役。

三六七 (堺奉行松浦伊勢守其外御役替ニ付書付) (文化二年) 三月八日 状

* 端裏に「写」と記載あり。括り紐とも。松浦伊勢守は京都町奉行へ転役。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三六六 (寄合藤堂主馬御役替ニ付書付)

(文化二年) 五月一〇日

*端裏に「写」と記載あり。藤堂主馬は火消役へ転役。

三六七一 (三輪傳内・松田與兵衛名前書付)

(江戸)

*付札あり。三六六一～三六六三の帯とも。

三六六二 頭書(尾張家千石以上役職ニ付)

(寛政～文化)

*端裏に「頭書」と記載あり。朱書で「淑姫」(寛政元年～文化一四年)の表記あり。

三六六三 頭書(荒川主馬・大塚與右衛門・水野喜三郎御役ニ付)

(安永～天明)

*端裏に「頭書」と記載あり。朱書で「純姫様」(安永六年二月宗睦養女、天明二年一月上杉治広と婚姻)の表記あり。

三六六一 (西丸御小性組番頭格土岐豊前守其外御役替ニ付書付)

(文化二年) 三月二八日

*端裏に「写」と記載あり。三六六一～三六六八の括り紐とも。土岐豊前守は御小性組番頭格へ転役。

三六九二 (小十人頭花村忠兵衛御役替ニ付書付)

(文化二年) 三月二二日

*端裏に「写」と記載あり。花村忠兵衛は目付へ転役。

三六九三 (表高家大沢右膳其外御役替ニ付書付)

(文化二年) 二月一五日

*端裏に「写」とあり。大沢右膳は高家へ転役。

三六九四 (所司代酒井讚岐守加判之列ニ付書付)

(文化二年) 四月一五日

*酒井讚岐守は酒井忠進のこと。

三六九五 (御小性組丹羽五左衛門其外御役替ニ付書付)

(文化二年) 正月一日

*丹羽五左衛門は御使番へ転役。

状 一

状 一

状 一

状 一

状 一

状 一

状 一

状 一

状 一

三六九上 (大御番頭丹羽式部少輔御役替ニ付書付)

(文化二二年) 正月二日

状 一

* 丹羽式部少輔は伏見奉行へ転役。

三六九七 (御納戸頭川井次郎兵衛御役替ニ付書付)

(文化二二年) 正月二四日

状 一

* 川井次郎兵衛は奈良奉行へ転役。

三六九八 (寺社奉行吟味物調役・御勘定組頭格星野鉄三郎御役替ニ付書付)

(文化二二年) 正月晦日

状 一

* 帯とも。星野鉄三郎は御納戸頭へ転役。

三七〇 (上使為御礼西丸江御差出ニ付申達)

(江戸)三月二三日

状 一

三七一 (日光御門主様御来臨ニ付申達)

(江戸)正月晦日

状 一

三七二 (姫君様より年頭御祝儀ニ付申達)

(江戸)正月朔日

状 一

三七三 (京都御使高家戸田備後守為勅答参上ニ付申達)

(江戸)二月二日

状 一

三七四 (来ル十五日姫君様年礼御登城ニ付書付)

(江戸)

状 一

三七五 (御簾中様御懐妊ニ付申達)

(文化二二年) 一〇月二〇日

状 一

* 御簾中様は大納言徳川家慶の御簾中楽宮喬子のこと。

三七六 (御道筋(市ヶ谷屋敷より水戸屋敷・一橋屋形迄)ニ付)

(江戸)

状 一

* 端裏に「御道筋」と記載あり。

三七七 (御台様・御簾中様・達姫君様江被仰入ニ付申達)

(文化)文政(三月)一九日

状 一

* 御台様は十一代將軍徳川家斉の御台所寔子、御簾中様は大納言徳川家慶の御簾中楽宮喬子、達姫は家慶の長女のこと。

三七八 (水戸少将様御婚礼ニ付申達)

(文化二二年)二月一七日

状 一

* 水戸家八代徳川斉脩と峯姫の婚礼は、文化二二年二月三日。

三七九 (水戸少将様御婚礼ニ付献上品等書付)

(文化二二年)二月

状 一

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三六〇	(近衛様御招請ニ付書付)	(江戸)四月	石河太郎	状	一
三六一	(明日十四日舞楽上覧尾張殿登城見物被仰出ニ付御礼書付)	(江戸)五月二三日	石河太郎	状	一
三六二	口上覚(御簾中様御懐妊ニ付公方様江御祝儀)	(文化二年) 一〇月二一日	石河太郎	状	一
三六三	*包紙とも。御簾中様はのちの十二代將軍徳川家慶の正室楽宮喬子のこと。公方様は十二代將軍徳川家斉。 口上覚(御簾中様御懐妊ニ付御台様江御祝儀)	(文化二年) 一〇月二一日	石河太郎	状	一
三六四	*包紙とも。御台様は十一代將軍徳川家斉の御台所寔子のこと。 (有章院様百回忌相済ニ付書付)	(文化二年) 三月朔日	石河太郎	状	一
三六五	*有章院様は七代將軍徳川家継のこと。 (有章院様百回忌相済御能見物ニ付書付)	(文化二年) 三月三日	石河太郎	状	一
三六六	(御簾中様御安産之祝儀物尾張殿拝領ニ付大納言様江書付)	(文化二年) 三月二三日	石河太郎	状	一
三六七	*儔姫君(大納言徳川家慶の二女)誕生につき祝儀。 (大納言様より安産之御祝儀物尾張殿拝領ニ付御簾中様江御礼書付)	(文化二年) 三月二三日	石河太郎	状	一
三六八	(日光山法事相済御台様江祝儀申上ニ付書付)	(江戸)四月二八日	石河太郎	状	一
三六九	(先月十七日御簾中様御安産達姫君様江御歎申上ニ付書付)	(文化二年) 三月一九日	石河太郎	状	一
三七〇	*「公方様江」と記載された付箋あり。達姫君様は大納言徳川家慶の長女。 書付(日光山法事相済御簾中様江御祝儀申上ニ付)	(江戸)四月二八日	石河太郎	状	一

*包紙とも。

三九二 書付(御遠慮中為御機嫌伺尾張殿登城候付御簾中様江申上ニ付) (江戸)八月二八日 石河太八郎

*包紙とも。

三九三 (紐) (江戸)

*三九三〇三〇の括り紐。

三九四 (日付書上) 延享二五年二月 状

*破損大。

三九五 (十三郎実母之儀ニ付書状) (元禄〱宝永) 一〇月一日 石川維水平利(花押)↓池田八郎衛門様

*包紙に「靱負様御内池田八郎衛門様」と記載あり。池田靱負は四代石河正章のこと(元禄一三年一二月二二日〱宝永四年正月)。

三九六 (先帝崩御御香奠献備之儀ニ付書状) (江戸)三月 石河佐渡守内

*端裏書「板倉様公用方迄佐渡守使者〆差出候何書付写」と記載あり。

山田小平次・岩田八九郎↓

三九七 君臣言行録(秀忠・家光之行動ニ付) 寛永三年七月二二日〱 状

同一一年六月

*付箋多数あり。

三九八 (日光山御宮拝礼之儀等ニ付紀州様・水戸様〆享保一三年) (江戸)三月二六日〱二七日 状

左近将監殿江伺ニ付御城書書拔)

(江戸)三月二六日〱二七日

三九九 御城書書拔(成瀬隼人正儀日光山拝礼其外之儀ニ付) (享保一三年) 状

三月一七日

四〇〇 (有徳院様御一周忌法事増上寺ニ而も被仰付儀ニ付書付) (宝暦二年) 状

六月一七日

*包紙とも。三九九一〱四〇〇の括り紐とも。有徳院様は八代將軍徳川吉宗のこと。

四〇一 (有徳院様御一周忌上野・増上寺法事ニ付書付) (宝暦二年) 状

石河家文書目録(十三)

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

三九三 寛延四辛未年七月七日手前留書拔(有徳院様法事ニ付)

寛延四年七月七日

天光院↓成瀬半太夫様
状態 一

*端裏書あり。

三九四 (増上寺おける有徳院様法事ニ付書状)

(宝暦二年)六月一七日

伊藤成美(花押)・名倉部(花押)
↓堀田郷右衛門様他五名
状態 一

三九五 (改年之御慶ニ付)

(安政く明治) 正月二日

御無難御厄除咒書付(御六十歳厄咒吟詠之歌)
*包紙とも。
状態 一

三〇〇

(江戸)二月吉日

御無難御厄除咒書付(御六十歳厄咒吟詠之歌)
*包紙とも。
状態 一